

(ア) 中学校区別ワークショップ

目 的：地域が主体的に地域の魅力や課題を把握し、地域課題の解決などのために協働していく「地域づくり」の気運醸成と、本市の最上位計画として策定する2040年を展望した「長期ビジョン」に地域の声を反映するため

期 間：令和2年（2020年）12月～令和3年（2021年）7月

対 象：37中学校区

参加人数：市 民 653名（男性51.7%、女性48.3%）

内 訳

町会自治会連合会、住民協議会、学校運営協議会、民生委員児童委員協議会、青少年対策地区委員会、福祉ボランティア団体、市民活動協議会、国際協会、障害者団体連絡協議会、商工会議所、青年会議所、環境市民会議会員、地球温暖化防止活動推進委員、小・中学校 PTA、無作為抽出市民、公募市民

従事者 505名

内 容：「20年後のありたい姿」とその実現に向けて「必要なこと」

○20年後のありたい姿の共通性

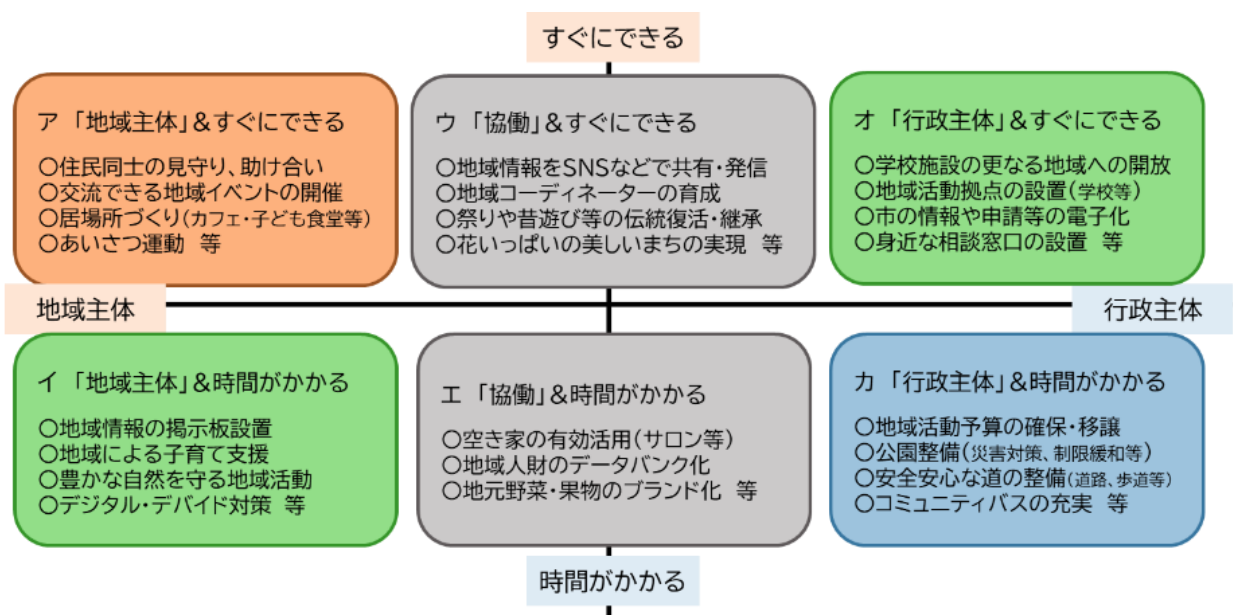
- ・【各中学校区に共通するキーワード】 ○つながり ○居場所 ○多世代交流

○ありたい姿を実現させるためのアプローチの多様性

- ・歴史や文化など、地域特性の異なる各中学校区では、ありたい姿を実現させるためのアプローチ方法が多様である。

○ありたい姿の実現に向けて必要なこと（主な内容）

- ・取組主体（「地域」・「行政」・「協働」）と時間（「すぐにできる」「時間がかかる」）の6つの象限に分類。



○検討結果の活用方法

(地域づくり)

- ・「地域づくり推進会議」において、地域課題等の解決に向けた取組内容を検討する資料として活用。
- ・地域住民等がその地域や他の地域に関する情報の共有や意見交換を行うための資料として活用。

(長期ビジョン)

- ・「地域のありたい姿」を長期ビジョンのあるべき姿の作成に活用。
- ・「ありたい姿の実現に向けて必要なこと」を長期ビジョンの重点テーマや施策の検討に活用。

(その他)

- ・「ありたい姿の実現に向けて必要なこと」を庁内で共有し、既存事業での対応や政策立案などに活用。

(イ) 高校生・大学生ワークショップ（オンライン開催）

期 間：令和2年（2020年）10・11月
 対 象：市内高等学校生徒、市内大学生
 高校：8校15名、大学：6大学21名
 内 容：市のありたい姿とその実現に向けて大切なもの

【取りまとめ結果】

八王子の未来のありたい姿として大切に思っていること

1 高校生ワークショップ

<p>交流の機会にあふれ、居場所がある</p> <p>思いや考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な立場の人と関わりたい ・「受け身」ではなく「高校生が積極的に関与」する姿勢や場が必要 ・「交流」が地域の暮らしに「安心できる居場所」をつくる <p>実現するために必要なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世代、国籍、障害などを越えて、楽しみながら交流できるイベント ・自由に集まれる場、勉強できる場所、学生ウエルカムなお店 など 	<p>他者への思いやりがあり、多様性が尊重される</p> <p>思いや考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者を思いやり、多様性を尊重することが大切 ・思いやりの一歩として、気軽なコミュニケーションが必要 <p>実現するために必要なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国籍住民への言語サポート、外国人と市民の助け合い ・誰でも歩きやすいインフラ整備、段差の解消など
<p>オープンな八王子であること、積極的な情報発信</p> <p>思いや考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「東京の中の田舎」という魅力を活かし、ずっと住み続けたいと思える選ばれるまちになりたい ・八王子の魅力を発信することが重要 <p>実現するために必要なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外の人から見てオープンで気軽に入り込みやすい地域コミュニティをつくる ・移住制度の充実、他市とのコラボレーションによる地域活性化 など 	<p>モノ・場所・情報の共有</p> <p>思いや考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モノだけでなく、場所や時間の共有が地域社会の持続性にもつながる ・場所や時間を共有するには、その情報が届くことが重要 <p>実現するために必要なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一か所で幅広い分野の情報を得られるようにする ・多くの人が誰でも使える、地域に開かれた施設の整備 など

2 大学生ワークショップ

<p>「豊かな自然」と「程よい都会」が共存する強みを活かす</p> <p>思いや考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利便性と自然の恵を同時に享受できる特別な場所であることを活かす ・自然は小中高生の成長の場や生涯学習の場など教育の場として活用する ・程よい都会（マイルドな都会）として、住みやすさや居心地のよさを向上させる <p>実現するために必要なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然の中でリラックスできる空間づくり（カフェ、公園、ベンチ） ・オンライン授業、リモートワークしながら自然と触れ合える環境づくり など 	<p>地域ビジネスの創出や地元で働きやすい環境を整える</p> <p>思いや考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地産地消のビジネスモデルづくり、「食」を通じて八王子の魅力発信や観光・MICEへの取り組みを行い、市外からの来訪・消費の拡大を図りたい ・地域内の交流や資源を活かし、仕事につなげる場・仕組みづくり、働きやすいまちにしたい <p>実現するために必要なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域広告を学生が作成し、話題性を高める ・大学生が広告塔になって八王子の良さをPR ・商品開発に学生が参画（名物料理、商品紹介のPOPづくり、パッケージデザイン等）など
<p>地域と関わるための「参加しやすさ」、「一緒に楽しむ」仕組み・場をつくる</p> <p>思いや考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学と地域・企業との連携、地域活動に気軽に参加できる仕組み・場が必要 ・アイデアの提案、SNS等を用いた情報発信を担うなど地域に貢献したい <p>実現するために必要なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学と地域の連携（地域の人と学生の学び合いによるアイデアの実現） ・地域活動に気軽に参加できる仕組みづくりなど 	<p>「八王子で暮らす」をブランド化する</p> <p>思いや考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心に暮らせるようなコミュニティづくりを進めることで地域愛が醸成され、ブランド化につながる ・自然を活用しながら、学びがある、知識や体験を交換できる、どの世代も楽しめるコミュニティも大切 <p>実現するために必要なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活費や養育費、医療、住宅などステージにあった切れ目ない支援 ・日常を楽しみ、安全・安心に暮らせる居場所を増やす など

(ア) 市民アンケート調査

期 間：令和3年（2021年）1月15～31日

対 象：無作為抽出した16歳以上の市内在住者5,000名

回 答：2,418名（有効回収率48.4%）

内 容：日常生活の実態、自身の将来に関する認識、本市の現在と将来に関する認識

【取りまとめ結果】

日常生活の実態

・インターネットの利用率 P17～27

64歳以下は9割近くから10割弱が利用

65歳以上は52.7%と割合が低い

利用していない理由は「インターネットがよくわからない」が最も高く39.9%

・町会・自治会への参加度合い P32～35

《参加している》（32.8%）

65歳以上（51.3%）

60～64歳（31.6%）

50～59歳（30.5%）などの順

《参加していない》（48.9%）

16～29歳（67.7%）

30～39歳（55.6%）

40～49歳及び60～64歳（54.0%）などの順

《加入していない》（17.6%）

30～39歳（30.8%）

16～29歳（26.8%）

40～49歳（20.9%）などの順

・身近（家族を除く）に日常の生活を送るにあたり支援が必要と感じる人の有無 P86～90

「いる」（11.8%）、「いない」（48.3%）、「わからない」（38.5%）

「いる」と回答した年齢では、65歳以上が最も高く13.6%

対象者・状況

「単身高齢者」（62.1%）

「高齢者夫婦」（28.8%）

「障害をお持ちの方」（19.3%）などの順

・介護を要する親族の有無 P91～101

「いる」（25.4%）、「いない」（73.9%）

《いる》

60～64歳（39.6%）

50～59歳（37.7%）

30～39歳（23.7%）などの順

自身の将来に関する認識

- ・ 将来（2040年頃）に対して不安に感じていること P102～105
 - 「自分や家族の健康や病気のこと」 (68.2%)
 - 「自分や家族が介護を必要とする状態になること」 (52.8%)
 - 「年金などの社会保障制度」 (41.3%)
 - 「自分や家族の生活のための収入のこと」 (37.5%) などの順

本市の現在と将来に関する認識

- ・ 社会環境に対する期待要素 P106～114
 - 「ワーク・ライフ・バランスの向上」 (69.7%)
 - 「時間や場所にとらわれない多様な働き方の浸透」 (68.7%)
 - 「ダイバーシティの実現」 (65.1%) などの順
- ・ 科学技術に対する期待要素 P115～125
 - 「疾病の早期発見・診断、体内監視の向上」 (88.5%)
 - 「自然災害予測・リアルタイムの災害リスク評価システムの実現」 (84.4%)
 - 「廃棄物などの有効活用の進展（レアメタル回収・利用など）」 (83.9%) などの順
- ・ 社会環境に対する不安要素 P126～144
 - 「自然災害」 (85.3%)
 - 「新型コロナウイルス感染症による生活の変化（新しい日常・生活様式など）」 (85.1%)
 - 「地球規模の温暖化進行」 (82.3%)
 - 「環境負荷の増大（海洋プラスチックごみなどによる生態系への影響を含む）」 (81.8%) などの順
- ・ 現在と比較した将来（2040年頃）の暮らしやすさへの期待 P145～148
 - 暮らしやすくなっていると《思う》 (23.0%)、《思わない》 (27.4%)
 - 年齢別にみると、16～29歳は《思う》 (29.7%)、《思わない》 (20.1%)
- ・ 2040年の八王子に残したいもの（自由記述） P149
 - 「自然」、次いで「高尾山」、「芸能・文化」、「人とひとのつながり」などの順
- ・ 将来（2040年頃）に向けて力を入れるべき施策 P154～157
 - 「高齢者への支援（介護サービス、地域包括ケアシステムの構築等）」 (27.5%)、
 - 「子ども・子育て支援」 (21.9%)
 - 「保健・医療の充実」 (19.1%)
 - 「防災・減災対策」 (17.8%) などの順

(イ) WEBアンケート調査

期 間：令和3年（2021年）3月1～31日

対 象：市内在住者及び交流人口や関係人口など本市に関わりがある方

回 答：1,037名

内 容：日常生活に関すること、自身及び市の将来に関すること、結婚・出産・子育てに関すること等

※本調査は、広く意見等を聴取することを重視しているため、無作為抽出によるものではない。

【取りまとめ結果】

・回答者の状況 P7

回答者のうち、22歳以下の占める割合は44%、39歳以下の占める割合は72.2%、49歳以下の占める割合は85.4%

・挑戦したい、行動に移したいとおもっていること（自由記述） P15・16

「地域」、「ボランティア活動」などのキーワードが多かった。

・将来に向けて、特に力を入れた方がよい分野 P23

「子ども・若者」(52.7%)
「地域・暮らし」(35.2%)
「健康・医療」(29.9%) などの順

【以下、20～49歳の方（473名）のみ回答】

・結婚生活についての不安 P27

「結婚生活にかかるお金」(40.0%)
「お互いの親の介護」(39.1%)
「子どもの教育」(34.5%) などの順

・結婚を希望する人を支援するために重要な施策 P28

「夫婦がともに働きつづけられるような職場環境の充実」(53.9%)
「賃金を上げて、安定した家計を営めるよう支援すること」(47.4%)
「安定した雇用機会を提供すること」(46.5%) などの順

・希望する子どもの人数 P29

「2人」(45.2%)
「3人」(25.6%)
「0人」(8.0%) などの順

・希望どおり子どもを持つために必要な環境 P32

「希望どおり産休や育休が取得できる」 (63.0%)

「幼稚園・保育園・認定こども園などへの入園の見通しが立っている」 (57.9%)

「妊娠中・出産後も同じ勤務先や再就職先で就職できる環境がある」 (56.7%) などの順

・重要と考える子育て支援施策 P36

「教育費の支援、軽減」 (72.7%)

「公園など、子どもを安心して育てられる環境の整備」 (53.1%)

「小児医療の充実」 (48.6%) などの順

(ウ) 小・中学生アンケート調査

期 間：令和3年（2021年）6月28日～7月21日

対 象：市立小学校及び義務教育学校児童4～6年生（以下「小学生」という。）

13,665名

市立中学校生徒1～3年生及び義務教育学校生徒7～9年生（以下「中学生」という。）

13,108名

回 答：小学生7,038名（有効回収率51.5%）

中学生8,061名（有効回収率61.5%）

内 容：市への定住意識に関すること、市の将来に関すること

【取りまとめ結果】

・定住意識 P11

《住み続けたい》は、小学生（75.8%）、中学生（62.2%）、全体（68.6%）

・将来の八王子への期待（社会環境に対する6つの期待要素） P14～25

小学生

「家族と過ごす時間と働く時間のバランスが取れていること」（89.5%）

「病気やケガがなく体も心もずっと健康で生活できること」（89.0%）

「性別、障害、出身国など多様性（違い）を認め合い、みんながいきいき活躍できるまちになること」（88.6%）などの順

中学生

「性別、障害、出身国など多様性（違い）を認め合い、みんながいきいき活躍できるまちになること」（89.4%）

「病気やケガがなく体も心もずっと健康で生活できること」（88.2%）

「家族と過ごす時間と働く時間のバランスが取れていること」（86.8%）などの順

6つの全ての問いで、《住み続けたい》と回答した小学生、中学生は、まちの未来への期待度が《住み続けたくない》、《わからない》に比べ、高い

- ・市制100周年記念事業で、小学5年生から高校3年生までの17名が、「未来の八王子」について話し合い、「自分たちがつくるまち」と「自分たちが将来に向けて取り組んでいくこと」をまとめた5つの考えに対し、自身の考えに近いもの【小学生のみ】

P26

「犯罪がなく市民全員が安心してくらせるまち」

そのために、私たちは、地域の人同士が顔見知りになるようにします。

そこで、大人と子どもと一緒にいられる場所を増やすように取り組む。 (70.0%)

「子どもが大人と一緒に楽しく安心して遊べる場所があるまち」

そのために、私たちは、子たちが楽しく安心して遊べるようにするため、

時間がある時には公園で遊んでいる小さな子どもの見守りに取り組む。 (60.5%)

「元気よくあいさつする世界一笑顔があふれるまち」

そのために、私たちは、恥ずかしがらずに、地域の人に「おはようございます」

などのあいさつをして、自分から積極的に人との交流を大切にすること

に取り組む。 (58.4%) などの順

- ・「あなたが市長だったら、八王子市の明るい未来に向けてどのようなことを行いたい
か」(自由記述)【中学生のみ】 P30

「人」、「増やす」、「地域」、「交流」、「作る」、「自然」といった単語が頻出

単語のつながりとしては「地域」を中心に「人」、「増やす」、「交流」がつながっている。また、「増やす」は「地域」以外のカテゴリで、「自然」「緑」「公園」とつながっている。